

こんにちは。私はヤラン・ホーランと申します。この異常な状況にもかかわらずスピーチコンテストに参加できることを本当に嬉しく思います。どうもありがとうございます。

では、スピーチのテーマを紹介させていただきたいと思います。誰であろうと言語を学びたい人は勉強の中でいくつかの大きい壁を乗り越えなければならないでしょう。特に日本とノルウェーのように遠く離れている国は、文化と言語の違いが山ほどあります。言語はコミュニケーションをとる道具でありながら、自分の文化を表すものでもあります。このように言語と文化はお互いに影響を与えて支え合っているのです。今日私は言語と文化のつながりについて少しお話したいと思っています。今まで日本語を勉強してきた経験をもとに、自分の感想を伝えたいと思っています。

私が最初に日本語を勉強し始めたとき、日本という国は遠い夢のようなものでした。毎日漢字や平仮名を練習していたのに、どうやってその知識を活かせるのかという疑問はいつも浮かんできました。教室で学んだことを実際に使うのはなかなか難しいと感じていました。もちろん大学で日本人の留学生がいましたが、結局自分の国で学べることは限られていると思います。日本語が生み出され、そして日本の文化と混ざっているその環境を経験してみたかったのです。

そこで私は去年ついに半年の留学に行ってきました。当時日本語を二年間勉強していたので日本はどのような国か、少しは想像がついていました。でも教科書で知識を得ると自分の身で学ぶのには大きな差があります。日本に半年住んでその事実を知ったのです。

一つ簡単な例といえば、日本は「ノー」とあまり言わない国として知られています。一方で、ノルウェーには率直にノーと言えるのが好ましいと考えられています。その違いをどれだけ知っていても練習しないと習慣になりません。私は日本に来てから何回も、先生の質問や友達の招待などに対して、ほかに代わる言葉を考えられずに「ノー」と言ってしまいました。ノルウェー人としてはまるで生まれながらの当然なことで、言うには抵抗感があまりな

いで す。でも日本語を上達して自然感を求めるには、自分の中の当たり前の習慣を変える  
しかないでしょう。

そう思いながら、同時にある悩みが浮かびました。それほど根本的な習慣を変えさせると、  
自分の考え方や仕草も少しずつ変わるのではないかと。一時期私はその辺でたぶん気を使  
いすぎて、前に英語やノルウェー語で話したことがあった友達に日本語で話すとまるで別  
人だと言われました。

やはり普通の会話ではそこまで意識しなくてもいいと思います。皆は人間ですし、頑張れば  
自分の意図や考えを伝えるのは無理なことではありません。でもスムーズでネイティブのよ  
うに、そして冗談などが通じるように伝えたいのなら、文化の理解を通じて自分の考え方を  
変えるのは必要でしょう。

このように、言語を学びたい人にとって、言語と文化のつながりを忘れないで勉強を進める  
ことは一番大事であり、同時に一番難しいことだと思います。

ご清聴ありがとうございました。